

浮金小だより



発行：平成31年3月1日（金）

文責：浮金小学校長 松崎 健一

定期PTA総会へのご出席、ありがとうございました。

2月22日に授業参観及び学級懇談の後、定期PTA総会が行われました。お忙しい中、大和田行政区长様の出席をいただき、今年度1年を振り返る時間となりました。保護者の皆様をはじめ地域の方々のご協力とご理解のもと、教育活動を充実できたものと考えています。改めて感謝申し上げます。

また、PTA総会では小学校の統合に関わる案件や報告もありました。保護者の皆さんに現況を知っていただき、次年度の方角性について承認いただきました。ありがとうございました。



陸上出前講座 ～陸上王国福島ジャンプアップ事業～

1月28日、3年生以上を対象に陸上出前講座を実施しました。講師として菊田明博さんが来校され、体育館で90分間みっちり運動しました。子どもたちは、楽しみながらも息が上がっていて、かなりの運動量と動きの体験になっていました。



校内なわとび記録会 2/12

自分で目標を立て取り組んできた子どもたち。様々な跳び方に挑みました。そして縦割り班4チームによる8の字跳びは見応えがありました。どの班も最後まで粘り強く頑張り抜き、目標回数をクリアすることができました。できることが、また増えましたね。

自己ベストを出すのも大事
力を出し切れずに悔しいと思うことも大事



目標:375→記録434



目標:250→記録298



目標:300→記録494



目標:400→記録463

思春期のいのちの出前講座

助産師の佐久間八潮さんを講師として、5・6年生を対象に「思春期のいのちの出前講座」を実施しました。赤ちゃんの人形を抱いたり、胎盤やへその緒など赤ちゃんがお腹にいるときの様子や赤ちゃんが誕生したときの喜びなどについて話を聴いたりしました。今の自分の命を見つめる大切な時間となりました。



6年生から5年生へ

現在、縦割り班による清掃活動の班長を5年生が務めています。4月からは今の5年生が学校のリーダーとなり中心となって学校を牽引していかなくてはなりません。その準備が始まっているのです。3月6日には、鼓笛移杖式が予定されています。

頑張れ！
5年生！



冬の自然体験学習！ in磐梯熱海アイスアリーナ

今年度は全学年でスケートに挑戦です。初めてスケートをする子どももたくさんいましたが、あきらめずに取り組みました。緊張の中、はいはいしながらリンクに入り、両手を広げてやっとリンクに立っていた子どもたちが、インストラクターの丁寧な指導の下、いつの間にか滑ることができるようになっていました。子どもたちは体で覚えるのが早いです。後半は、リンク一面を使って自由滑走です。笑顔で滑る姿がたくさん見られました。



ほとんどの子が自由滑走を楽しんでいる中、リンクの端で先生と手を繋ぎながら練習をしている1年生がいました。弱音を吐くこともなく粘り強く最後まで頑張る姿は立派だと思えました。その後、先生の手を離れ、転びながらも皆と一緒に笑顔で滑っていました。



校長室より

今年度も残すところ1ヶ月となり、登校日で数えると後14日である。早いものである。そして、年度末で大忙しの中ではあるが、着々と新年度に向けて当たり前のように世の中は動いている。

さて、今年度も本校では「気づき、考え、実行する」のプロセスを軸として教育目標の具現を図ってきた。子どもたちには、特に、様々な方の支えがあって今があるのであって、決して当たり前ではないことに気付いて欲しく、何度か子どもたちに疑問をぶつけてきた。学校便り12・13号にその一端を書かせていただいた。

見守り隊の方が毎朝登校班に付いて歩いていただいている。雨の日も雪の日も猛暑の日でもある。見守り隊の方に「おはようございます」の挨拶しかなかった子どもたちは、当たり前のことではないと気付いて、校門に入る前に「ありがとうございました」と毎朝頭を下げるようになった。

次に本校の給食の残食量の多さについてだ。残食量が多いことより、「残してもいい」が当たり前になっていないかが気になった。「好き嫌いがある」や「美味しくないと」は残す理由にはならない。それに気付いた子どもたちは、嫌いなものでも食べてみよう、好みの味ではないけど食べてみようとしている。すると1・2月は、ほとんど残食がない状態である。また、給食一口メモの自由欄に書いた子どもたちの声にも変化の姿が表れている。一緒に給食センターからの返信も紹介する。

(2月25・26日に2年生が書いたもの)



女兒：クリームシチューがにがでだったけど、りょうをへらさずぜんぶ食べられました。
返信：すごい！がんばりましたね。だんだんに、苦手でなくなるといいね。

男児：手作りのお好み焼きがプロの人が作ったあじで、ソースとあおのりがよくあい、ほっぺがおちました。

返信：「プロの味」は私たちにとって最高の褒め言葉。ついにおちてしまったんですね。美味しいものを食べると幸せな気持ちになりますよね。

子どもたちは、感謝の気持ちを言葉と行動で表すことができるようになってきた。素晴らしい「気づき、考え、実行する」姿だと思いつつ同時に、感謝の気持ちがあれば、決して当たり前のこととは思わないだろうと考えている。

間もなく3月11日がやってくる。当たり前と思っていたことが全て覆された大震災の日である。あれから8年が過ぎようとしている。子どもたちに、あの震災で何が起きてどんな教訓を得たのか伝えていくことは重要であると考え、11日に本校でも防災集会をする予定である。

私は、もし想定外の事態が起きたときに何が一番頼りになるかと問われれば、「人と人とのつながり」と答える。日常の中で人とのつながりができていればどんなことにも対応できると、あの震災の経験から学んだ。勿論、避難訓練や災害に対する対応マニュアルの作成なども重要である。しかし、最後はやはり人である。つい先日の夜8時ごろ、住宅に消防団の方が回ってきた。住宅用火災警報器の設置状況の確認のため、名簿を片手に一軒一軒伺っているそうだ。声を掛けていただきありがたいと思う。そして、これも大切な人とのつながりと考え、感謝するばかりである。

非常食体験給食

給食センターでは、4日に非常食体験給食を実施します。メニューは次のとおりです。

- ・おにぎり
- ・ヒートレスカレー
- ・カンパン
- ・おひたし
- ・牛乳

